

特集

これからの 結核対策

地域連携による支援を めざして



年間約2万人の新規患者が発生する結核は減少傾向にあるものの、依然としてわが国の主要な感染症である。多剤耐性結核菌の発生、外国人や住所不定者等の感染、集団による感染など、新たな課題も見られている。このような実態から、早期発見・早期対応が重要であり、保健所等が地域の他機関と連携した包括的な対策が求められる。本特集では結核を取り巻く現状を整理するとともに、保健所での取り組み事例を交え、これからの結核対策を展望する。

●結核を取り巻く現状とこれからの対策

「結核に関する特定感染症予防指針」の見直しに向けた議論を踏まえて

●今、結核対策で保健師に求められている力と役割

患者中心の包括的支援を

●多職種連携による結核対策

山梨県中北保健福祉事務所の取り組み

●結核罹患率の減少へ向けた総合的な結核対策

「神戸市結核予防計画2020」を踏まえた神戸市の取り組み

●地域連携クリニカルパスを用いた結核の早期発見

市川保健所と安房保健所の取り組み